

特別公開 国宝・彦根屏風

令和2年4月10日(金)~5月10日(日)

近世初期風俗画の傑作、国宝・彦根屏風を特別公開します。



風俗図(彦根屏風)

テーマ展 伝承のなかの戦国

—古城図・布陣図・合戦記—

令和2年5月13日(水)~6月9日(火)

戦国の世が終わった後、城や有名な合戦に関心を寄せ、情報を収集する人びとがいました。本展では、館藏品から江戸時代に描かれた古城や布陣図、合戦記など、後世から見た戦国の城や合戦を紹介します。



佐和山古城図

テーマ展 彦根藩御用絵師 佐竹永海

—写山楼から愛雪楼へ—

令和2年6月12日(金)~7月14日(火) ※6月23日(火)は休館

井伊家12代直亮、13代直弼、14代直憲の3代に仕えた佐竹永海(1803~74)の作品と画業を紹介。永海ははじめ狩野派を学び、のちに関東文人画の雄、谷文晁の画塾「写山楼」で腕を磨き、多彩な画風で種々の御用をつとめました。



鷲図

企画展 拵 —井伊家伝来刀装選—

令和2年7月17日(金)~8月18日(火)

大名家伝来の刀の拵には、漆芸や彫金などの技術の粋を集めた装飾が多く見られます。特に彦根藩井伊家の拵は、鞘塗の技巧を凝らしたものに富み、全国的にも稀有な存在です。本展では、その中から選りすぐりの名品を公開します。

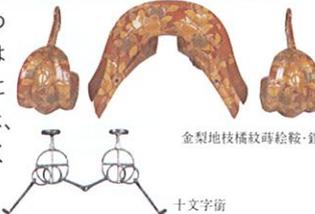


朱漆塗絳巻鞘大小拵

テーマ展 武家の備え —井伊家伝来の馬具—

令和2年8月21日(金)~9月15日(火) ※9月1日(火)は休館

武士に欠かせない馬術。馬を操るための鞍や鐙などの馬具は、江戸時代には武家を象徴する道具の1つであり、時には贈答品として用いられました。本展では、井伊家伝来の鞍・鐙はもちろん、馬を牽く際の道具なども紹介します。



金製地枝橘紋時給鞍・鐙

十字字衝

企画展 彦根藩井伊家と能楽

令和2年9月18日(金)~10月19日(日)

能楽が幕府の式楽に定められた江戸時代、諸藩でも盛んに能が行われました。彦根藩井伊家も役者を召し抱え、江戸上屋敷や彦根城表御殿などに能舞台を建設したことが分かっています。本展では、彦根藩井伊家の能楽について初めて紹介します。



唐織 茶地大鼓革鞆ぎに菊折枝文様

特別展 幻の名窯 湖東焼

—彦根藩窯の盛衰—

令和2年10月23日(金)~11月23日(月・祝)

江戸時代、民間で始まり藩窯として栄えた彦根のやきもの、湖東焼。その品質は極めて高いものでしたが、制作の期間が短く現存作品が少ないため、幻のやきものと呼ばれてきました。本展では、多彩な作例と史料を通じて、その成立および展開の歴史を紹介するとともに、湖東焼に影響を与えた各地のやきものに注目することにより、造形的な特質にも迫り、湖東焼の全貌を初めて明らかにします。



赤絵金彩 芦雁図水指



染付牧童図大皿(個人蔵)



青手古九谷写鳳凰文平鉢

テーマ展 戦に備える —彦根藩の武具管理—

令和2年11月27日(金)~12月24日(木) ※12月15日(火)は休館

江戸時代、甲冑などの武具はほとんど実戦で用いられなくなりますが、武士の必需品でもあったことから、大切に扱われました。本展では、彦根藩の武具管理の実態を、それを担った人びとを通して紹介します。



小幡組武器返済覚(個人蔵)



獲物武器馬具類記(個人蔵)

テーマ展 子どもをめぐる美術

—祈りから遊びまで—

令和3年1月1日(金・祝)~2月2日(火)

日本の美術工芸品には、子どもにまつわる様々な作品があります。健やかな成長を祈る節句の人形や、吉祥を意味する大勢の唐子を描く絵画、遊び道具まで、子どもをめぐる営みとそれに関わる多様な作品を紹介します。



唐子遊図(個人蔵)

特別公開 雛と雛道具

令和3年2月5日(金)~3月8日(日)

井伊家13代直弼の愛娘弥千代(1846~1927)の雛と大揃いの雛道具を、地元の旧家に伝来した古今雛や御殿飾りなどとともに一挙公開。春の訪れを告げる恒例の展示です。



弥千代の雛道具(簀盤)



弥千代の雛道具(屏風・小袖・扶箱・三輪)

テーマ展 書斎の美 —文房具愛玩—

令和3年3月12日(金)~4月13日(火)

文字を書く際に用いる文房具は、古来、室内を飾る「文房飾」の道具としても用いられ、様々な装飾が尽くされました。本展では、井伊家伝来品を中心に、多彩な魅力を持つ文房具の数々を紹介します。



紫水晶罇太鼓硯



湖東焼 赤絵金彩丸文散硯屏(個人蔵)

幽玄の美



武家の備え

数奇の世界



数奇の世界

“ほんもの”との出会い

徳川譜代大名筆頭 井伊家伝来の名宝の数々

彦根城博物館の展示は盛りだくさん。譜代大名筆頭、井伊家に伝来した大名道具を中心に、日本の美と歴史にせまります。伝来の名宝の中から展示品を順次入れ替え、次々に秘蔵の名品、逸品が登場します。

雅楽の伝統



風雅のたしなみ



古文書が語る世界

